

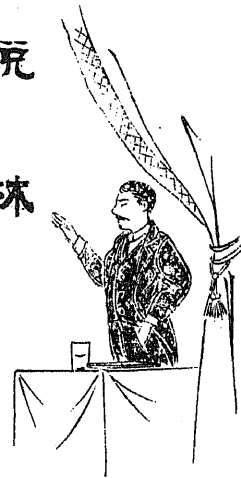
驢馬に乗る胡人が妻や草の花
 白鳩や今朝秋立ちし大社
 探轉んで月眺めけり椽の端
 月今宵昔の戀を語るかな
 戸明くれば霧の吹きこむ山家
 朝霧や人渡りゆく丸木橋
 細道は茲に蕞きたり女郎花
 釣あげし鶯淡刺さ草の中
 用ひざる垣根の白や鳳仙花
 合宿に女歌舞妓や秋の雨
 黙として鵲の囀りふくれたる
 ことくさ米搗く人や春月の月
 明月や今年の芋の大ききよ
 大角力の櫓太鼓や朝嵐
 蠅螂の斧さもしれ我が主張
 唐辛嗚呼唐辛日本園
 高樓や金風白露海の月
 冷かや十二帝陵雲低き
 稻妻や犬の子吼る椽の下
 貯木場や鰯釣る人の檜笠

同 鯉 同 信 同 弦 同 玉 同 鬼 同 松 同 箕 同 千 同 碧 同 聽

村 夫 月 浦 水 軒 山 畝 月 溝



説 林



幼稚園に於ける幼児個人性の發達及保護

ミス、エー、ビー、ヒューズ演説
安井哲子通譯

教員諸君、私は先今日皆様が私の爲めに此席に
 出づる機會を御與へ下さいました御禮と、日本語
 が出來ません爲めに通辨を経て話を致さなければ
 ならぬ申譯を致さねばなりません。

私がケンブリッチ大學に生徒で居りました時、
 余程注意して管理の種々の形を研究致しましたが

：即ち異りたる年齢や、異りたる時に於て、多くの男子が自分達を組織して行く所の種々の方法：其中に一の危険があることを私は發見致しましたそれは即ち壓制で御座ります。

そこで壓制の行はれ易い場合を研究致して見ますと二つある様に思はれます。即

其一は管理者と被管理者との間に非常な差違がある場合で、即管理者の強さも、知力も、才能も、被管理者より非常に勝れて居る場合

又其二は立法、行政、司法の三が一人又は或一小部分の人の手に歸せらるゝの場合で御座います、

其後私がケンブリッジで教職に就きまして、一部分の人を管理する様になりましてからも、絶えず此事に付て考へて居りましたし、又學校兒童に付ても考へましたが、考へますれば考へまする程、普通の教室と云ふものは、壓制を行ふのに適當して居る場所であると云ふことを覺りました。先教

師と兒童とが、其學藝に於ても、人生に對する智識に於ても、知力に於ても、想像力に於ても、道徳力に付ても、体力に付ても、如何に違ふかを考へて御覽なさい。又子供が如何に其運命を吾々の手に委ねて居るかを御覽なさい。吾々は彼等の爲めに規則を作り、又彼等を裁判し、彼等を處置致します。實に立法行政司法の三權は吾々の手に歸して居ると申して宜しう御座ります。夫故吾々教師たるものは能く注意致して兒童を管理致す方法を研究せねばなりません。

私はそれから始終若學校で壓制が行はれて居りはせぬかと云ふことに注意致しましたが、こゝに二種類の壓制が行はれて居るのを發見致しました。其一は意識的の壓制で、これは僅の痕跡が残つて居るのみで御座りますが、他の一の無意識的壓制

は大分其痕跡を認めます。そうして之れは主に個人性を保護し又發達させぬと云ふに依るので最も普通の壓制の形で御座ります。

凡人間と云ふものは、人間として自分自身であるのと云ふ所の權利が御座ります。否自分自身であるのと云ふとは、人間の人間たる義務で御座ります。彼有名な伊太利の愛國家のマツイチー氏が「權利と義務とは互に離るべからざるものである」と申されましたが、私は之れに従うて「吾々は兒童が人類である爲めに又彼等は彼等自身の個人性を發達せねばならぬ爲めに、又此の如くなすときは世界に對して彼等が尤有益となる筈である故に、吾々は兒童を教育せねばならぬのである」と申しませう。

今試に皆様に二の問ひを出して見ませう。即

ち其一は

一体どんな人が吾々をつまらなく思はせ、倦き倦きさせるで御座りませうか。無學の人でせうか、そうでは御座りません。個人性の發達せぬ人で御座ります。

私が曾て出遇つた人の中で最面白くないと思つた人は其元氣を皆智識を増すこゝのみに致して、少しも個人性を發達せなかつた人で御座ります。

第二の問題は、如何なる人が何處でも今望まれて居りませうかそれは男でも女でも、自分から考へた事のある人で、即個性の發達した人で、それ故に又何かの役に立つた人で御座ります。

之に依りても、私は吾々教師は個人性の必要と云ふ所に深く考を置かねばならぬと思ひます。

若吾々は吾々自身がドレ程強くあつて、兒童がドレ程弱くあるかと申すことを記憶するならば、吾々は尤注意して吾々の考を考へさせ、我々の意見を意見とさせ、吾々の智識のみを受け入れぬ様にせぬばなりません。吾々は決して兒童が吾々の模形の通りになる事を望みませぬ。吾々は兒童

が吾々よりも今少し大きく、今少し良くなるものであると云ふ事を信じて居ります。實に兒童が將來に住まうとし、働かうとする世界は吾々の今日住んで居る世界よりも、一層廣く且良いものである筈で御座ります。若彼等が吾々よりも良くなるぬならば國の爲めに實に悲しむべきとて御座ります。吾々の思想が彼等の將來には十分高尚でない。云ふとは吾々の實に喜んで考ふべき事で御座ります。教師の眞の仕事と云ふものは、其生徒をして彼等の特性に従ふて自分で其品性を作らしむると云ふことで若吾々教師が雛形を與へ、又は思想を與ふるならば、彼等が自分自身に雛形を作り、自分自身の思想を達達させる。云ふとを妨ぐるで御座りませう。

私は幼児教育に従事致したとは御座りませんけ

れども、年の長じた生徒を教育致しますのに、生徒が自分自身の意見を作らぬ中には決して私の意見を述べぬ様に致しました。若そうでないならば常に人の意見のみを借りて自分で思想を形作る。云ふとを致さぬ様になります。夫故吾々教師たるものは、常に意識して吾生徒の個人性を作るやうにせねばなりません。之を致すには能く道理に適した撰擇と云ふとを生徒自身にさせる外、他に方法がないと思はれます。夫故に子供をして自分で定め、又定めるには相應の道理に依る様致さねばならぬと思ひます。それには十分の自由を與ふる必要だ此自由に依つて自ら撰び、其結果を自受くる様にさせる必要で御座ります。」

吾々は總ての事を子供の爲めに定めてやることは比較的容易で、時も勞力も經濟であるを知つ

て居ます。又現在に得る所の結果が一層大切の様に考ふることが普通ですが、併吾々は今日の爲めに子供を作るのではなく、遙未來の爲に致して居るので御座りませす。吾人は決して一時の假小屋を作るのでなくて未來に出來上る立派な建物の爲に其基礎を作つて居るので御座りませす。それ故に吾人の時と勞力とは此未來の基礎の爲めに費さるべきもので御座りませす。

若し學校で子供が、いつでも同じ仕方、皆同じ仕事をやつて居りませすならば、私は其學校が非常に不満足に思はれます。言を換へて申しましたならば、一齋教授が學校教授の唯一の方法であるとか考ふる事には私は反對で御座りませす。私の考で教師が其必要を認めさへすれば他に教育する仕方は無數にあるであらうと考へませす。

私が曾て見ました幼稚園中で尤面白く感じましたのは、伊太利のチーブルスにあるもので御座ります。此所では其仕事は何れも皆二に分れて居ります。即一は教師の指導する仕事で、一は兒童の自撰擇する仕事で御座ります。私は丁度蛙の教授を見ましたが、初教師は之に付て極簡單な教授をなし、それから子供にそれを繪にかくか、粘土細工にするか、又は其話を聞くか、それに付ても讀むか、を撰ばせませした。其間の子供の様子其撰擇にあらゆる力を用ひ、考の弱い子供を勸めて自分の意見が多數を得るやうに仕様とする有様誠に樂しげに見えませしたが、終に多數決で粘土細工に定りませした。

或は之れを聞いて随分時間を費したと申さるゝ人も御座りませせう。併ながら時間は有益に費され

たので御座ります。即撰擇と云ふ事が立派な教育になつて居るので御座ります。

以上の精神は此一例に依りて明に御分りになると望みます。若御望ならば之で付て尙詳細の説明を致すので御座りませう。

それで此個人性の發達及保護と申す事は幼稚園の教育に尤必要で、心理上學校兒童の發達する有様を三の形に表はすとが出来ませう。

第一期は例令は「山を攀ち登る」時代で四歳より七八歳位までの子供を含み、身体上に尤必要なる變化が起る時で、病氣其他外部の刺戟に感じ易き時で御座りますから最大切な時代で御座ります。第二期は「平地」の時代で八九歳より十二三歳までの兒童を含み、知力的習慣の形作らるゝ極容易な時代で御座ります。

第三期は「火山」の時代で十三歳より十七八歳までの兒童を含み、子供とも大人ともつかず、新しい心力が現はれて來、其生活の態度が尤困難で御座りますし、又之を管理するにも、非常に困難で御座ります。

此第一期に於ては殊に壓制は危険で御座ります、下の三條件に依りて之を防ぐとが出来ませう、即一は子供に對する愛で御座ります。固より吾々の愛は母親ほごには深くは御座りませんけれども若教師に十分の愛があるならば壓制を避けられます。又其二は吾人は吾人の爲に子供を管理するのではなく、子供の幸福の爲めに管理すると云ふことを記應するに必要で御座ります。第三は仕事の爲に能く研究をなし、十分の用意をなす事。

此三の保護に依りて壓制の危険は免れますが、

それでも矢張幾分の無意的壓制に陥り易いもので御座ります。私はかく壓制に付ての主なる主意を申して實際の應用は余り申しませんでした。それは實際上の議論は後から澤山出るであらうと思ひますからで御座ります。

或時私は英國で或教師に個人性の發達を妨害する條件は何であるかど問はれたことが御座りました、其時私は幼稚園及小學校一二年の熱心な且元氣のある女教師が全力を盡して子供に智識を注ぎ込み一心に子供のために仕事をしてやつて、子供をして其個人性を發達させる機會を與へぬ人であると答へました、此種類の教師は随分澤山各國にゐると考へます。

私は生徒と無意的に壓制しては居らなかつたかと云ふ事を自ら試めず方法を自分の經驗から御話

致さうと存じます。即三ヶ月も生徒を教へた後には其生徒が初めとは如何に變つたかと云ふ事を觀若兒童が自撰擇し、自意見を形付くる様になつたならば幾分か満足をする事が出来ますから、益自由を與へて個人性を發達する様に致したので御座ります。

終に臨んで簡單に之れを繰返へしますと

第一 個人性の發達は眞に必要な問題であるでせうか

第二 吾々は子供よりも強くありますから無意的に子供を壓制する事は御座りませんまいか

第三 若壓制する事が危険であると致しますれば、熱心な教師は如何にしてそれを避くる事を勉めますか

第四 如何に致したならば個人性の發達を助くる事が出来ませうか

是等の問題に付てドナタか御意見を述べて下さる御方がありますれば、私は大に喜ぶ所で御座ります。